本多の森コース

続く緑の回廊「豊かな自然環境と都市景観の創出」

犀川と浅野川によって形成された小立野台地。兼六園とそれに続く本多の森は、まちなかにありながら豊富な緑にふれることができる恵まれた環境です。スダジイやタブノキの巨木に自然の荘厳さを感じます。

石川護国神社 ➡ 大乗寺坂 ➡ 中村記念美術館 ➡
美術の小径 ➡ 本多の森 ➡ 県立美術館広坂別館 ➡
石浦神社 ➡ 兼六園梅林 ➡ 金城霊沢 ➡ 能楽堂ほか

●石川護国神社の樹林

護国神社の樹林では、まずは拝殿周囲の樹高25mに達するヒノキ、スギ、モミの大木に目を奪われます。参道右の重厚なゴヨウマツやサカキ、ヒサカキなどの中低木も多く、また、名札がつけられた種々の樹木もみられます。

●大乗寺坂

大乗寺坂は、ＮＴＴ金沢支社横から本多町へ下る坂道です。藩政期の慶長から元禄年間に曹洞宗の古刹（こさつ）、大乗寺が坂下にあったのでこの名でよばれています。同寺はのちに長坂町に移りました。坂の途中からまちなみを眺めると、緑の丘陵地野田山や、遠くは犀川奥にそびえる奈良岳や大門山などの山々が姿をあらわします。

（大乗寺坂）

●鈴木大拙館

大乗寺坂を下り、右へと進んでいくと鈴木大拙館があります。小立野台地から続く斜面緑地を背景に、石垣や水景などによって金沢を象徴する景観を創作し、その中で鈴木大拙の世界を展開していくことをコンセプトとしています。館内には書や写真、著作などの資料が展示され、来館者が自由かつ自然な心で大拙に出会うことにより得た感動や心の変化を自らの思索に繋げていく場となっています。また、近くには「鈴木大拙生誕地記念碑」も建っています。禅と仏教の研究で国内のみならず世界的に名高い大拙の偉業が偲ばれます。

●中村記念美術館から美術の小径へ

本多通り、県立図書館を右に折れます。本多の森が正面にみえ、本多公園の趣あるしつらえに調和した中村記念美術館に辿りつきます。

茶道具の名品を中心に加賀蒔絵、古九谷など数多くの逸品が展示されています。木造で黒瓦が美しい旧館も、さらに薫り高い伝統文化の気品を漂わせています。

緑の木陰で覆われた急な石段を登ります。「美術の小径（こみち）」とよばれ、県立美術館へと続く散策路です。中程から、清涼感ある水音が聞こえてきます。辰巳用水分流のせせらぎですが、急斜面を勢いよく流れ落ちてくるので、まるで滝のような力強さを感じます。ここでは、この用水の落差を利用したマイクロ水力発電設備を設置しています。水力を電気にかえる自然エネルギーの有効活用として、発電した電力は公園内のＬＥＤ照明に使っています。平成29年３月末には、「歴史の小径（こみち）」も新たに整備されました。

また、その他に中村記念美術館から鈴木大拙館へと続く「緑の小径（こみち）」があります。秋には鮮やかに色づいた紅葉がきれいな紅葉スポットとなっています。

（美術の小径（こみち））

●本多の森

まちなかの緑のオアシスと親しまれている本多の森公園。公園内には、緑濃い森だけでなく文化財や文化施設が数多く点在し、一帯は兼六園周辺文化ゾーンとよばれています。その本多の森は、スダジイやタブノキなど葉の表面に光沢がある照葉樹林を中心とした緑で、特に県立美術館広坂別館周辺のスダジイの巨木群やモミの木などは、貴重な自然の森を代表するひとつです。

●広坂かいわい

県立美術館広坂別館から階段を下り、緑あふれる小道を進むと石浦神社。境内の樹林は、まちなかに残された潤いのある緑で、マキ、モチノキなど名札がつけられた樹木もみられます。広坂交差点を兼六園方面に渡り、真弓坂を左にみながら広坂を進みます。坂中程を左に折れ、正面にみえてくるのが兼六園梅林です。

金沢に春の訪れを告げる兼六園のウメは、20種200本（白梅約140本、紅梅約60本）。主な品種は、実梅では白加賀（しらかが）、花梅では摩耶紅（まやこう）が多く、３月に花の見頃を迎え６月頃に実を収穫して、福祉施設などに配られます。

●「金沢」地名の誕生

金城霊沢は昔、芋掘藤五郎がこの泉で芋を洗ったところ、砂金が出てきたところから「金洗い沢」とよばれ、そこから「金沢」の地名が生まれたといわれています。小立野段丘からのわき水と考えられ、井底からわき出していて、真夏でも涸れることはありません。茶会の水として、寒の季節の冷たい水は、文化財など保存用の正麩糊（しょうふのり）をつくるために使われています。

隣は金沢神社。アカマツ、スギ、モミなどの高木、サカキ、モミジなどの中木がみられ、境内周囲にはウバメガシの生け垣がめぐらされています。神社横から通りへ出ると、能楽堂、成巽閣、伝統産業工芸館などの文化財・文化施設が建ち並んでいます。